

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2 年 3 月 13 日

事業所名 放課後等デイサービスハピネス

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7名			仕切りを設けることでスペースの確保はできている。	今後も指定基準を遵守し、子ども達の安全に配慮していく。
	2	職員の配置数は適切である	7名			配置基準を満たして、適切な運営ができています。	今後、利用者の増加が考えられるため職員を増やす。また、資格所有者を採用することによって質の高い支援を目指す。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7名			それぞれの個性に合わせた安らぎを与えられるように構造化している。	引き続き継続維持していくと共に子ども達が楽しく過ごせる遊具等の導入を取り入れていく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7名			日々のスタッフミーティングでPDCAサイクルを取り入れ、実践している。	日々のスタッフ間の連携と週1回の事業所ミーティング、月2回実施している会議等を継続して実施していく
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7名			保護者の貴重な意見を頂き、保護者様の安心につなげていきたい。	指摘された事項はしっかりと受け止め、スタッフミーティング・法人会議等で改善をしていく。また、関係機関等との連携を行い、より良い事業所作りに励んでいく
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7名			保護者様からの結果をもとに作成、改善しHPに公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7名			協力会社による定期的な評価がある。	今後は協力会社のみでなく、外部企業への評価依頼を取り入れたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7名			定期的に社内研修や出張研修に派遣している。	もっと幅広い分野の研修に参加していきたい。また、外部開催の研修等に管理者だけでなく、スタッフが参加できるように職員間で協力しながら対応していく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7名			同法人にいる書類管理スタッフが定期的に研修やスタッフの意向等を踏まえて書類を見直し、児童・保護者のニーズを反映した書類になるよう努めています。	管理者を中心として、スタッフ全員で計画作成会議を行うことで多くの視点での意見が出るので幅広い支援が提供できている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5名	2名			基本的なアセスメントシートを基本として、独自のシートを作成して活用している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7名			事業所だけでなく、協力会社のバックアップを受けながら他者が行っていないようなプログラムを組むように心がけている。	協力会社と共に計画を練り、マリンスポーツやホエールウォッチング等が無償で提供できているので、今後も続けていきたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7名			MTGとは別で良いアイデア等が見つかった際に会議を持っている。	今後はもっと回数を増やしていくことで、より良いプログラムが出てくるかと思う。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7名			限られた時間内で、親と本人のニーズを反映するようプログラムを立案している。	弊社コンセプトである「感動体験での自立と成長」を常に意識して各種プログラムや支援方法等を考えている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7名			個別活動と集団活動を組み合わせて、長所と課題を明確にしている。	日によって体調や情緒に波があるので、送迎時の様子等もスタッフで共有し、個室での個人の活動や、課外活動など集団の活動に分けている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6名	1名		パートやシフトで休みのスタッフにはMTGノートを活用して共有している。	今後も連携不足がないように定期的なミーティングを継続し、PDCAサイクルに取り組んでいく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7名			送迎時の事も含め、1日の振り返りを行っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7名			日々の記録と改善、検証はしっかりとできている。	支援記録に盛り込むことで、常に支援計画に沿った支援ができ、児童の課題等が明確にできている。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7名			モニタリング実行月を表にまとめ事務室に掲示し、月始めに職員共有している	モニタリング終了後は、管理者のみでなくスタッフ全員に共有できている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	7名			基本活動の中でも特に「社会生活や経験の範囲が制限されないようにする」事に重点を置き、障がいのない子ども以上の体験に参加できるようなプログラム作りに励んでいる。		

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最もふ さわしい者が参画している	7名			管理者・サビ管だけで なく、同一法人の相談 員に必要に応じて協力 要請し一緒に参加して 助言いただく等してい る。	今後も管理者・児発管だけでなく法人一体となって参 加し、より良い会議になるよう努めていく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等 の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連 絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の 連絡)を適切に行っている	7名			児童の安全のために、 常に報・連・相の徹底を 心掛けています。	連絡調整ミスによる下校時刻間違い等が起きないよう、保護 者・学校・本人への調整を密に行うと同時に職員間でも「い つ、誰に確認した」等を意識して曖昧な情報にならないよう 心がけていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場 合は、子どもの主治医等と連絡体制を整え ている	7名			現在、医療的ケアが必 要な児童がいません。	今後、医療的ケアが必要な児童が入ることを考え、その際 にはしっかりと対応していきたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認 定こども園、児童発達支援事業所等との間 で情報共有と相互理解に努めている	7名			必要がある際には、情 報の提供と共有を行え ている。	「何も問題ない」からではなく、定期的交流を持って、情報共 有できるようにしていく。また、引き継ぎ書類等を作成し、情 報提供できるように心がけていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業 所から障害福祉サービス事業所等へ移行 する場合、それまでの支援内容等の情報を 提供する等している	7名				現時点では、該当児童がいません。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援 センター等の専門機関と連携し、助言や研 修を受けている	5名		2名	定期的な研修を受けて いる。	回数が少ないので、もっと頻度を増やしていきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障 がいのない子どもと活動する機会がある	5名	2名		近くの児童館へ行き、 交流している。	回数が少ないので、もっと頻度を増やしていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加 している	4名		3名	協議会の参加はない が、町が実施する研修 等へは参加し、また 日々の取り組みを会議 等を通してご理解いた だいている。	自治会への加入等から始め、もっと深く関わっていき たい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの発達の状況や課題について共 通理解を持っている	7名			連絡帳を使い、日々 の状態を報告して連携 を図っている。	少しでも気になる点があれば、送迎後に保護者へ連絡して 報告し、改めて今後の支援について相談している。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保 護者に対してペアレント・トレーニング等の 支援を行っている	6名	1名		保護者向け勉強会を実 施している。	保護者の意見を踏まえつつ、必要に応じて定期的な開催を 検討していく。	
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	7名			しっかりと説明して同意 を得ている。	契約の際に説明して同意を得ている。また、契約後も要望が あれば再度説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相 談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っ ている	7名			保護者を含めたイベ ントを開催している。 (BBQや勉強会等)	法人相談員を活用し、「相談できます」を告知し、保護者が相 談しやすい環境を整備していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等 を開催する等により、保護者同士の連携を 支援している	6名	1名		保護者を含めたイベ ントを開催している。 (BBQや勉強会等)	参加しない(できない)保護者がいるので、今後は時間の調 整等して参加しやすい環境を整える。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応 の体制を整備するとともに、子どもや保護 者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ 適切に対応している	7名			連絡帳やメール、LINE 等相談できる窓口を幅 広く持ち、相談があっ た際には対応でき ている。	業務時間外の相談が多いので、相談の範囲などを明確にす る必要がある。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者 に対して発信している	7名			毎月、たよりを発行し ている。	LINEやメールももっと活用して、より細かな情報を発信して いく。
	35	個人情報に十分注意している	7名			情報が外部に漏れない よう、常にスタッフに周 知している。	事務所に児童が入り出すことが多いので、ファイルなどは 出しっぱなしにしないよう心掛けていく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎 通や情報伝達のための配慮をしている	7名			連絡帳やメール、LINE を活用してわかりやす く説明している。	今後も空間整備の強化を常に心がけ、安心して来所いた だけるように努めていく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等 地域に開かれた事業運営を図っている	3名	3名	1名	保護者のニーズを考え ると、難しい部分もあ る。	地域住民を招待できるような業務を実施していない。行事計 画を立てる中で該当する行事を実施する際は招待できるよう に普段から地域交流を実施していく。

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7名			各種マニュアルを研修時に確認すると共に年に2回消防署の協力のもと避難訓練を実施している。	保護者の皆様と共有がいつでもできるわけではない為、避難訓練実施時は避難方法・経路図・連絡方法等を書面・ブログ等を通してお知らせしていく。
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7名			定期的に避難訓練を実施している。また、避難場所等を子ども達と確認し、日々の遊びの中でも確認するようにしている。	
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7名			外部講師等を活用しながら、年1回実施している。	今後も定期的開催し、適切な対応・手法を学んでいく。
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7名			契約書・重要事項説明書に記載し、また本人の特性を事前に個別支援会議で確認し、両親の対応等を確認している。	引き続き、利用開始時に個別支援会議を実施し、本児の特性を理解する事を心がけていく。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7名			事前に保護者から情報をもらい、おやつ提供時にはしっかりと配慮している。	アレルギーのみでなく、病院受診後は診断書等の情報をもらい、児童の健康管理に努めている。
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7名			事例が起きた際は職員間で再度、注意喚起と防止法について話し合っている。	環境等を整備し、事前に防具・確認する事を心がけていく。